

和歌山県公共工事入札監視委員会第83回定例会議 議事概要

開催日及び場所	令和4年11月18日(金) 13:30~15:00 和歌山県日赤会館 大会議室	
出席委員氏名	沖 本 易 子 (委員長) 永 瀬 節 治 (副委員長) 田 上 順 子 辻 原 治 柳 川 正 剛 岩 橋 靖 子	
審議対象期間	令和4年 7月1日 ~ 令和4年 9月30日	
抽出案件	総件数 2 件	議事 ○入札及び契約手続の実績状況等の報告 ○抽出工事に係る競争参加資格の認定の経緯等審議 ○意見交換会
一般競争入札	件	
条件付き 一般競争入札	2 件	
通常指名競争入札	— 件	
随意契約	— 件	
委員からの意見・ 質問、それに対する 回答	意見・質問 別紙のとおり	回 答 別紙のとおり
委員会による建議 の内容	なし	

意見・質問	回 答
<p>【入札及び契約手続の実績状況等報告】</p> <p>1. A委員 随意契約が4件と少ないが、その理由は何か。</p> <p>2. B委員 とび・土工・コンクリート工事の応札者が非常に多い傾向にあるが、その理由は何か。</p> <p>3. B委員 応札者が非常に多いと、実務的に県庁職員が対応しきれないのではないか。</p>	<p>1. 災害や大きな台風があまり来なかったことで、緊急の随意契約が少なくなった。【事務局】</p> <p>2. 土木一式工事では、各ランクごとの発注基準額を定めている。一方、とび・土工・コンクリート工事では、複数のランクを設定しておらず、発注基準額がないため、応札者が多くなる傾向がある。【事務局】</p> <p>3. 総合評価の点数については、建設部等の担当者が全て個々にチェックしていたが、昨年から応札者が電子入札システムに申告点数を入力する自己申告制に変更しており、省力化を図っている。【事務局】</p>
<p>【条件付き一般競争入札】</p> <p>○（仮称）新串本団地建築工事</p> <p>1. C委員 「新串本団地」とあるが、元々串本の県営住宅が別の場所にあったものを、この場所に建てるということか。</p> <p>2. D委員 1回目は全応札者が予定価格を超過し落札者がなく、1回目も応札している夏山組が、2回目で予定価格以内となっている。そうすると、削った部分があると考えられるが、工事の内容は変わっているのか。</p> <p>3. B委員 1回目の入札で全者予定価格超過したとのことだが、予定価格に対してどのくらいの額の超過であったか。</p>	<p>（発注機関：公共建築課）</p> <p>1. 同じ串本町内に2階建て8戸の老朽化した県営住宅があるが、津波の危険もあるため、建替移転を計画したものである。</p> <p>2. 2回目の公告を出すのに際し、付属で一緒にやろうとしていた工事を、少し後に別発注とすることにしたり、建築資材の価格高騰等を踏まえて単価を少し見直したりといった、工程に影響を与えない部分で工事内容の見直しを行っている。</p> <p>3. 4%強、約4000万円くらい超過したということになると思われる。</p>

意見・質問	回 答
<p>4. B委員 県で積算した時期と、発注した時期の差はどのくらいか。また、その間に単価が変動しているか、確認しているか。</p> <p>5. B委員 1 回目の入札で全者予定価格超過だったのは、設計から応札までの間に資材が高騰し、資材の単価が変動したため、十分起こりうることであったと理解して良いか。</p>	<p>4. 単体設計は令和4年3月に実施している。業者が積算する単価は令和4年6月のものを使用しているため、約3か月のズレが生じている。また、その間に単価の変動があった事は確認している。</p> <p>5. 我々もその様に考えている。</p>
<p>【条件付き一般競争入札】 ○西川河川整備工事</p> <p>1. E委員 工事概要として、矢板工があるが、一般的にどの工事でもこのような作業は行うのか。</p> <p>2. B委員 参加可能業者数が日高管内で4者となっているが、このクラスになると、応札できる業者は限られてくる事が、一者応札となった原因か。</p> <p>3. C委員 潮位の影響を受けやすい河川の比較的河口に近いところで浚渫工事を行うと、潮位の影響を受けるエリアが上下動したりするのではないかと思うが、技術的にはどのように整理して工事を実施するのか。</p> <p>4. D委員 兩岸の堤防を嵩上げするという発想もあると思うがどうか。</p>	<p>(発注機関：日高振興局建設部)</p> <p>1. 矢板工は、既存の護岸などが倒れる可能性があるため、先に倒れないようにしてから川の底を掘るために行っている。</p> <p>2. 船が川の下流から上流に向けて上っていく途中、橋が5つくらいあるが、船が大きすぎると入らない。一方、小さすぎると、矢板を打つときにウィンチ機が持ち上がらない。このため、ちょうど良い規模の船を持つところが少なかったためだと考えている。</p> <p>3. 河川の計画をする際は、まず全体計画を作るが、その際、計画流量と河川断面、勾配が重要となる。勾配があれば水は流れるため、計画された流量は勾配によって満潮であっても流れるように、計画を策定している。</p> <p>4. この堤防の兩岸、特に河口付近は、人家が川沿いに建っていたり、橋や道路もあるため、川を広げるとか、堤防を高くする等の方法では影響が大きくなり、時間が非常にかかってしまう。そのため、比較的短期間に効果の現れるこの工法を選択した。</p>

意見・質問	回 答
<p>5. B委員 満潮と大雨が重なって、農地や道路の冠水がたびたび発生しているとあるが、西川が氾濫したことがあるという覚えはない。農地、道路の冠水と、西川とはどのような関係があるか。</p> <p>6. B委員 シミュレーションに基づいて計画の中に以前から入っており、それに沿って今やっているという事なのか、あるいは、災害が発生する前にやるという国の考えに沿って行っているという事なのか。</p>	<p>5. 西川のより上流の方では、流れにくくなり溜まった内水が、西川に流れずに澱み、周辺の道路や農地が浸水することがある。そのため、河口から整備し、全体的に水位を下げることで、周辺の水はけが良くなり、浸水が少なくなると考えている。</p> <p>6. 水系全体の整備方針を以前に立てており、その中から、今後 20 年間で効果が出ると見込まれる箇所を抽出し、整備計画を立て実施しているうちの1つである。</p>
<p>【意見交換会】 下記について意見交換を行った。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1. 公共工事動向について 2. 若者・女性活躍推進モデル工事について</p>	